

平成26年度第2回小金井市食育推進会議 会議録

日 時 平成26年8月25日(月) 午前10時00分～午後11時40分

場 所 保健センター1階大会議室

出席委員 人

会 長 南 道 子 委員  
委 員 酒 井 文 子 委員 齊 藤 幸 穂 委員  
委 員 雀 部 かおり 委員 鈴 木 祥 江 委員  
委 員 高 木 有 希 委員 鳥 羽 浩 子 委員  
委 員 松 嶋 あおい 委員 島 崎 聡 子 委員  
委 員 吉 田 千 晴 委員 志 田 尚 紀 委員  
委 員 菊 谷 武 委員 土 屋 直 己 委員  
委 員 渡 辺 悟 委員 松 井 大 平 委員  
委 員 柿 崎 健 一 委員

欠席委員 0 人

---

事務局職員

健康課長	高 橋 啓 之
健康課健康係長	中 島 明 美
健康課健康係主任	千 葉 祐 生
健康課健康係主事	田 中 昌 子

---

傍 聴 者 1 人

(午前10時00分 開会)

○南会長 みなさん、こんにちは。定刻となりましたので、はじめさせていただきます。

お忙しいところをご出席いただきまして、ありがとうございます。

それでは、これより平成26年度第2回小金井市食育推進会議を開会させていただきます。

はじめに、委員の出欠と配布資料の確認を事務局からお願いします。

○高橋課長 本日の委員の方々の出欠でございますが、すべての委員に出席をいただいておりますので、審議会としては成立することをご報告いたします。

次に資料についてでございます。事前に送付させていただいたものとして、本日の「次第」、「資料1 小金井市食育推進会議委員名簿（平成26年8月現在）」、「資料2 食育推進計画進捗状況報告（平成25年度実施分）」、「資料3 食育ホームページレシピチラシ「Koganei-Style」」、「資料4 長野県の健康寿命について」、「資料5 佐久市の塩分今と昔」でございます。よろしいでしょうか。

それから、前回の会議資料は、皆さん、お持ちでしょうか。もしない方がいらっしゃれば、事務局にお申し出いただければと思います。

それから、今回の審議会から、東京むさし農業協同組合小金井支店様から選出いただいております嶋崎委員にかわりまして、新しく渡辺委員が選出委員という形になりました。今期初めての出席ということになりますので、一言ご挨拶をお願いしたいと思います。

○渡辺委員 皆さん、こんにちは。前回まで嶋崎がこちらに参加させていただきましたけれども、6月26日の辞令を持ちまして、国分寺のほうから小金井経済センターに参りました渡辺です。4年半前まではいたのですが、酒井さんとか、よく顔を合わせた間柄ですけれども、今後ともよろしく願います。

○南会長 ありがとうございます。

委員の変更に伴って、資料1、名簿が新しくなっていますので、よろしくお願いいたします。

それから、議事に入る前に、前回の会議録について、事務局から報告をお願いしたいのですが、

○高橋課長 平成26年度第1回の会議録につきましては、6月23日に委員の皆様へお送りさせていただき、7月4日までということでご確認いただきました。特に訂正等の連絡はございませんでしたので、7月9日の段階で正副会長にその旨をご報告させていただきまして、7月16日付で情報公開をさせていただきました。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

続きまして、意見・提案シートについて、事務局から報告をお願いいたします。

○高橋課長 本日の会議に関する意見・提案はございませんでした。

○南会長 ありがとうございます。

では、本日の議事につきましては、次第にありますとおり、「(1) 食育行事について」「(2) 食

育推進計画進捗報告（平成25年度実施分）について」「（3）食育推進計画の各論について」の3つを用意しております。

それでは、議事に入りたいと思います。

1点目、「（1）食育行事について」、まず、事務局から報告をお願いいたします。

○千葉主任 それでは、平成26年度の食育行事についてご報告いたします。

9月のキッズカーニバルについてですが、前回の食育推進会議にて実行委員会設置の承認をいただきまして、8月1日に第1回の実行委員会を開催いたしました。

今年度の実行委員会には、食育推進会議の委員からは酒井副会長、雀部委員、鳥羽委員、松嶋委員の4名及び公募市民の5名と合わせて9名の方にご参加をいただいております、実行委員長には食育推進会議の松嶋委員、副実行委員長には公募市民の法月委員に就任をいただきました。

出展の内容につきましては、昨年、大変好評でしたので、今年度もほぼ同様に予定しております、野菜と果物の花当てクイズ、野菜の計量体験、箱の中身の野菜当てクイズ、豆つかみゲーム、野菜スタンプを使ったお絵描きコーナーを予定しております。

ことは9月14日日曜日の11時から16時まで、東京学芸大学の芸術館での開催となりますので、委員の皆様も日程が合えば、ぜひ当日いらしていただければと思います。

事務局からは以上です。

○南会長 ありがとうございます。

この行事については、食育推進会議からも数名参加されているということなので、代表して松嶋委員から補足の説明などありますでしょうか。

○松嶋委員 実行委員長を拝命しました松嶋です。

食育月間の行事としてのキッズカーニバル出展、今回は3回目になりますが、過去2回、出席させていただきましたが、親子様の参加が前回660名、その前も500名超えで、親子そろって楽しく食育に触れていただく機会になっていると実感しております。楽しみながら、お子さんが丸ごとのカボチャを初めて見たですとか、お野菜の計量などで、うちってこんなに食べてるっけみたいなことで、親子で触れ合うことによって、親御さんの意識も非常に上がっていて、あっ、このくらい食べなくちゃとか、うちは結構食べるわよと得意そうに言うお母様方がいらして、食育にとっては非常に重要な行事と感じております。ことしも委員一同で、出展ブース、各委員を決めまして、準備に勤しんでおります。メダルをつくるなど、あと、担当のブースの準備をしております。ことしも頑張りたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

○南会長 どうもありがとうございます。

では、ほかの委員から意見とか質問などありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ことしのキッズカーニバルは9月14日ということなので、委員の皆様もぜひ出席していただきたいと思います。

続きまして、議事の2番目、「食育推進計画進捗状況報告（平成25年度実施分）」についてです。

では、まず、事務局のほうからお願いします。

○千葉主任 それでは、資料2「食育推進計画進捗状況報告（平成25年度実施分）」についてご説明いたします。

各項目の詳細な説明につきましては、計画の各論を審議いただく際にご紹介させていただきたいと思っておりますので、今回は全体の印象を説明させていただきたいと思っております。

ことしの進捗状況報告ですが、例年と比べ各課からの記載内容も多く、課題の分析などにも前向きな部署がふえていると食育を主管する健康課としては感じております。これは、平成25年3月の小金井市食育推進基本条例の制定ですとか、平成25年12月の小金井市食育推進計画の改定、こういったものに伴いまして、庁内各課への食育が浸透してきた結果であると考えております。

また、これとは別なのですけれども、毎年行っております内閣府からの食育月間の取組状況調査においても、市内の各保育園、各学校を初めとするさまざまなところから取り組みについて回答をいただいております。各担当部署からも積極的な情報発信がなされていると考えております。

事務局からは以上です。

○南会長 ありがとうございます。

委員の皆様は事務局から事前にこの資料を配付されていると思うのですけれども、目を通されて、何か質問とか意見などありましたら、お願いしたいのですけれども。

○雀部委員 進捗状況なのですけれども、今まで何年も見てきて、すごく詳しくなったなという感があります。具体的な数値等を挙げることによって、会議に参加されている委員の方もイメージが多分しやすいと思いますし、1年間を振り返らないと数値のデータをこういうふうに挙げてくることはできないと思うので、各課が振り返りをするということにおいても、事業実績を具体的にあらわすということはずごく大事なことだなと感じました。課題と対策が書かれているので、また1年たったときにどのように改善されてくるかというのが、チェック機能として、ここの会議がある意義があるのかなという気がします。

○南会長 ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。酒井さん。

○酒井委員 酒井です。

2点ほど。1点は内容のことで質問なのですけれども、2ページ目で、健康課の上から6番目、乳幼

児食育メールのところで、課題及び対策等ということで、年1回アンケートを実施しているということでここに記載があるのですが、具体的にどのようなアンケートをとられているか教えていただけたらと思います。

○田中主事 毎年配信登録している方に対して、概ね年度末の3月から4月にアンケートをとっております。内容としましては、8項目ありまして、まず、「乳幼児食育メールを読みましたか」ということで、「毎回読んだ」「時々読んだ」「ほとんど読まなかった」の3つから選択するようになっています。

2番目に、「内容はいかがでしたか」という質問に対し、「参考になった」「参考にならなかった」「どちらとも言えない」の3つから選択する形になっております。

3番目の項目として、「レシピはいかがでしょうか」という質問に対し、「このままでよい」「レシピはもっと多いほうがよい」「レシピはなくてもよい」の3つから選択する形になっております。

4つ目の項目が、「文章はいかがでしたか」という設問に対し、「このままでよい」「量はもっと多いほうがよい」「量はもっと少なくてよい」の3つから選ぶ形式になっております。

5つ目の項目は、「食育ホームページを知っていますか」という設問に対し、「知っている」「知らない」の2つのどちらかを選択する形になっております。

6番目の項目が、「毎年6月は食育月間、毎月19日は食育の日ですが、このことを知っていましたか」という設問に対し、「食育月間も食育の日も知っている」「食育月間のみ知っている」「食育の日のみ知っている」「知らなかった」の4つから選択する形になっております。

7番目は、「ご意見、ご要望、ご感想があれば自由にご記入ください」という設問で、250文字以内でお答えいただくようになっております。

8番目は、「乳幼児に関することで、知りたい情報があればご記入ください」ということで、こちらも250文字以内で記入いただく形式になっております。

以上です。

○酒井委員 ありがとうございます。

もう一点なのですが、先ほど雀部委員から、今までになく、すごく各課とも力が入っているというお話があったのですが、健康課としてまとめる際に、食育の推進経過にのっとってやっているということはあるのですが、各課で個々にやっている事業のときに、食育という言葉は用いられていないのですね。ですから、各課で事業をされるときにも、これは小金井市で食育推進に絡んでやっている、文言はちょっとわかりませんが、各課で事業をやるときにも、何かしら食育の文言を入れていただけると、すごくわかりやすくなるのではないかなと。私たちが進捗状況とかをお聞きするときに各課で上がってくる内容としては、これは食育ですよということですが、各事業のときに食育という文

言を掲げていないので、各課でも、うちでやっている事業は食育に絡んでいますよというような文言を入れていただけたら、食育、すごく盛り上がっているぞというのが外側から見てもわかるのではないかと思います。

以上です。

○南会長 それについて、事務局から何かありますか。

○高橋課長 今、酒井副会長からそういうお話がありまして、お話をお伺いしながら、そのとおりだなと思う部分もあります。反面、我々健康課として、どういうふうに庁内に周知をしていくのかということと、あと、各課にしてみれば、例えば、環境であったりとか、子育てであったりとかという視点の中で事業を行いながらでも、食育にも当然絡んでいるというのは認識しているのですけれども、その事業に参加された市民の方にどうPRしていくべきなのかということは、全てができるのかどうかというのはよく考えてみなければいけないなと思っております。私としては、食育という言葉が浸透していくことも大切なことなのですけれども、それとはまた別の視点から言うと、気がついたら食育が浸透していたといいましようか、それぞれの各課、我々健康課以外の担当部署も含めて、それぞれの事業をしっかりとやっていく、そのPRをしっかりとやっていくことによって、小金井市内の中での食育の取り組みが結果として浸透してきているというのも1つのあり方かなと思っている部分がありますので、健康課としては、食育のこともPRしてもらいたいということは、今後も庁内に向けては情報発信していきたいと思っておりますけれども、即効性のあるような形にはなかなかできない部分があるので、地道に継続して取り組んでいきたいと考えております。

○南会長 各課の取り組みというか、健康課以外の取り組みというのは、健康課から依頼して行ってもらっているものではないのですか。

○高橋課長 違います。

○南会長 各課で独自に。

○高橋課長 各課独自です。

○酒井委員 ただ、独自でやっていて、それが食育につながっているということがあってここに上がってきているのですけれども、例えば、経済課でいろいろやっていることが、地産地消で食育につながっていますよというのがあっても、それを独自の事業でやったときに、これ、食育ですよというふうに周知はしないわけですよ。だから、どこかでそういうのを周知しておくと、高橋課長がおっしゃったのはわかるのですけれども、やはり耳で入ってくると、あっ、この課も、この課もやっているのですねというのがあって、全体がやっている感が出るかなと思いたしましたので、庁内会というか、あれで、積極的に働きかけていただきたいと思っております。

○高橋課長 はい。

○南会長 食育推進計画がここに上がってきている以上は、各課でも食育ということを意識しているということでしょうから、それを念頭に置いて事業を行ってほしいということは、この会議からお願いという形で、各課に伝えていただけたらと思います。

○高橋課長 はい。

○南会長 ほかに何かありますでしょうか。

○鈴木委員 区分を見ますと、高校生から成人、高齢者等の食育推進というのがありますが、事業内容を見ますと、高校生が参加できるものが少ないのかなと思ひまして、高校生向けで何か食育への取り組みの事業があってもいいのかなと思ひました。

○南会長 それは学校の授業の中で。

○鈴木委員 これを見ると、割と高齢者の方向けと書いてあるのが多くありまして、成人向けのものも、割と年配の方を対象にしているのかなという気がしまして、20代、30代の独身の会社員の方向けですとか、高校生・大学生向けの事業が余り見当たらなかったのも、その部分が働きかけがまだされていないのかなと思ひました。

○南会長 それについては、今まで会議で上がったこととかはありますか。

○高橋課長 鈴木委員おっしゃるとおりで、これは行政全体としての話になってきてしまうと思うのですけれども、どうしても義務教育後の年齢層というのは、行政が施策として絡みにくい部分ではあるのですね。逆に高齢の方になってしまえば、行政としてはかかわれる機会もたくさんあるのですけれども、今、おっしゃった部分の年齢層というのは、個別の施策としては絡みにくい部分がある。ただ、では何もしていないのかということとそうでもなく、例えば、高校生とか大学生とか、そういう形での施策としてのアプローチではないのですけれども、先日も行われました農業祭であったりとか、イベントなどには高校生、大学生を含む若年層の方たちがたくさん来てらっしゃるという部分もありますので、そういう形で今の段階ではご理解いただければと思います。高校生向けの何かという事業を打つことが効果的なのかどうかというのは、検討の余地ありかなという思ひはしておりますが、行政になかなか目が向いていない世代だとも思ひますので、そこに目を向かせるためにどうしたらいいのかというのは、根本的に考えていかなければいけないのかなと思ひております。

以上です。

○雀部委員 実際、児童館で活動させていただいているので、そのかわりで、高校生や大学生がどうかかかわっているか、実際のお話をさせていただきたいと思うのですけれども、確かに施策として市が働きかけても、実際、人が集まるかというのはかなり難しい部分があつて、私も高校生の子供がいるので

すけれども、学校から帰ってくる時間が遅かったり、学校がさまざま、いろいろな場所にあるので、やるとしても、本当に夜の時間、また夜も塾に行っていたりとかいうことがあると、1カ所に集めて、何時から何時まで何をするというのはすごく難しい世代なのは正直なところだと思うのです。

実際、児童館では、緑児童館にかかわっていることが多いのですが、夏期クラブとって、何日か工作とかをやりながら、中学生以上の子たちが小学生の夏休みのイベントとして、ボランティアリーダーとしてかかわるのです。その中で一緒に食材を買いに行き、一泊、児童館で泊まるのですが、そのときに料理を一緒につくったりですとか、あと、ことしですとスモーカーづくりをやったのですが、薫製をつくる機械をみんなで手づくりして、実際に食べ物を薫製してみようなどということもやっていますし、アプローチの仕方が、乳幼児とか、大人のかかわる範囲とは違って、もうちょっと平易な形で、イベントから何とか少し周知させていくというのが一番スムーズに入りやすい。それから、イベントは、お休みの日が多かったりとか。今回の夏期クラブも、夏休み中なので、比較的高校生や大学生が参加しやすいというのもあったりですとか、ボランティアには学校も結構力を入れていたりとかするので、ボランティアで何かやってくるとか、宿題でとかいう話で出てきたりもするので、そういう形で、例えば、地域のお祭りのイベントに参加して、ボランティアで焼きそばをつくったりとか、食育と言われればちょっと難しいかもしれないけれども、アプローチとしてはそういう入り方が一番参加しやすいのかなというふうに、余りかた苦しいと、敬遠されて寄ってこないで、できれば、若い世代には本当にそういうアプローチがなされるといいのかなと感じています。

○南会長 ありがとうございます。

○松嶋委員 松嶋です。

私も今のお2人のお話と同じように感じておりまして、先日、北センターで高校生と大学生によるノンアルコールカクテルづくりというイベントがあって、うちの子がお誘いは受けたのですが、たまたま出られなかったのですが、非常に楽しそうなイベントだなと思いました。なので、そういうふうな形で、どこかのセンターで高校生と大学生と一緒にレシピを考えるであるとか、食育に絡めてそういうイベント、あとは先ほどおっしゃられたように、学校ごとでボランティアを募集して、例えば、今回のキッズカーニバルですとか、そういう行事に学生スタッフとして入っていただくとか、そういうアイデアも今後検討していただけたらと思います。

○南会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

私がざっと見たところでは、料理をするというのがすごく多いかなという気がするのですが、そういうふうになると人が集まるというのは確かなのですが、つくって食べて、すぐ忘れてしまうとい



うと、やった意味があるのかなという気もするので、料理を餌にと言ったら変なのですけども、それは集客の材料として、プラスアルファで、その前後で知識ですとか、例えば、今のノンアルコールのカクテルづくりだったら、急性アルコール中毒、アルコール濃度が体重の0.1%ぐらいがほろ酔いだと思うのですけれども、これくらい高くなると中毒症状になると、アルコールの度数ごとに、体重どれぐらいの人はビール何本飲むとそうなるっちゃうよとか、具体的な知識も少し前後でつけ加えていただけると、市役所としての食育といいますかね、ふさわしいかなとちょっと思ったのです。これは意見としてというか、現状がどうなっているか、私、参加したことがないので、やられているなら大変いいことなのですけども、私もいわゆる調理実習も担当している者として、ただつくって食べるだけだと、1週間後にはほとんど学生は何をつくったか覚えていないのですね。そういう状況なので、何か心にとまるような、頭の隅に残るような知識なり、経験もちろん大事なのですけども、そういうものもあるといいかなと。どうしてこれをやる必要があるかというような、その必要性を感じられるような調理だといいかなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○酒井委員 健康課などでも、田中さんがやっていた、油を見せてやった授業がありましたね、そういうのを取れ入れてやったりとか、私などもごみ対策課とか、経済課とか、環境政策課などの領域をしたときはそういう問題提起をして、野菜だったら野菜についてちょっとお話ししたりして料理をつくるのか、なるべくそうやっています。

○南会長 では、各事業について、そのような形で、知識プラス実習、経験、そういうのを学べるような形でお願いできたらと思います。

では、ほかにいかがでしょうか。今、ぱっとは思いつかないようでしたら、後からでもよろしいので、健康課のほうに気がついたことについてのご意見とか質問などをしていただけたらと思います。それは、2番についてはよろしいでしょうか。

では、議事の3番目、「食育推進計画の各論について」に入ります。

前回の食育推進会議では、食育を充実させるために必要な推進策についての提言を行うことが決められ、いわゆる第2部の会議でそれらについての審議をして市長に提出することになっています。現在の課題や不足している部分を明確にした上で、それに向けた政策を提案していくのですけれども、とりあえず、順番として、計画に沿って進めていき、どの部分を重点的に審議するかをその過程で検討していきたいと思います。

計画の土台づくりの部分について、事務局から説明をお願いいたします。

○千葉主任 それでは、「食育の土台づくり～啓発活動の充実と情報の整備～」について簡単にご説明

させていただきます。

食育推進計画、オレンジの冊子の15ページをごらんください。よろしいでしょうか。食育推進計画15ページの部分についてですが、食育に関心のある市民は7割以上と、食育という言葉や意味の認知は徐々に広がってきているところかと思えます。

しかし、生活習慣病の患者は増加傾向にあり、誤ったダイエットを行った結果、体調を崩す方もいるなど、食の問題もさまざま指摘されているところです。本計画の基本理念である望ましい食習慣を選び、そして実践することができるようにするために、食育の土台づくりとして、さまざまな機会を通じて食育に関する啓発活動を行っていくこととしております。

具体的な取り組みとしまして、まず「①啓発活動の充実」では、5つの事業を掲載しております。これまでの審議会でもお話しさせていただいている6月の食育月間行事や11月の農業祭といった大規模なイベントにて啓発活動を行うほか、毎月19日にも食育の日としまして、乳幼児の保護者へのメールマガジンの配信ですとか、乳幼児から高齢者までを対象とした各種教室においてもバランスのよい食生活の啓発を行っております。また、環境の観点からも、野菜くずを出さない料理教室ですとか、生ごみから堆肥をつくる事業を通しまして、循環型社会についての学びを深めていただいております。

「②情報の整備」では、計画の16ページになりますが、こちらでは5項目を掲載しております。こちらの主な内容といたしましては、全国でも先進的な取り組みとして、食育ホームページを小金井市独自に開設しております、野菜の直売所を初めとする地域に根づいた食育の情報、市内で行われている食に関する取り組みの紹介、野菜を使ったレシピの紹介など、さまざまな情報を発信しているところです。

事務局からは以上になります。

○南会長 ありがとうございます。

では、啓発活動の充実の3番目、「農業祭等での啓発活動」について、こちらに携わっているJAの渡辺委員から、ありますでしょうか。

○渡辺委員 どういうふうにお答えしているか、よくわからないのですが、農業祭の概要という形でよろしいですか。

○南会長 はい。

○渡辺委員 毎年行われております小金井市農業祭、ことしも秋に行われます。毎年、交流会館、フェスティバルコートという形で行われていますけれども、ことしに限りましては、交流会館が使えないということで、フェスティバルコートのみで行います。日程が11月8日と9日。8日が、一般の方が観覧できるのが1時から、9日が9時半からという形で行われます。

もともと、この農業祭、お祭りという名前がついていますけれども、品評会という形で、小金井地区の農家さんがいろいろな作物を出して、それに順位をつけて等賞をつけていくというものです。それを一般の方に見てもらって、ああ、こういうものができているのだなということを知ってもらうアピールの場にさせてもらっています。

こちらは今回が第65回となるのですが、もともとは小金井市役所、その後は連雀通りにある農協、そちらの場所も使えなくなってきた、第一小学校、そして現在が駅前という形で行われています。現在の来店の方は、通りすがりの人も大分多いのでわからないのですが、第一小学校でやっていたころは3,000人から4,000人のお客さんが見に来られると。宝船などもありますので、今回も市報に載せさせていただいて、応募を取りまして、一般の方にお配りするという形をとらせていただきます。

今回だけなのですが、大分規模が小さくなってしまって、青壮年部とかの団体が食べるものとかも出していたのですが、今回はそういうブースがなくなってしまって、ちょっと規模が小さくなって申しわけないのですが、場所は人が通るところでやっていきますので、多くの方にアピールできればと考えております。品評会のほうも大体1,300点から1,400点ぐらいは出てくるのかなと思いますので、ぜひ皆様にも来ていただきたいと思います。ことしもやらせていただきますので、ぜひよろしく願いいたします。

○南会長 ありがとうございます。

では、関連して農業振興連合会の土屋委員から何か補足説明がありましたら、お願いします。

○土屋委員 今の概要がほとんどではあるのですが、自分の立場からということと言うと、青壮年部会に所属していることから、本当はその場でいろいろな物販というか、販売もする予定ではいたのですが、先ほどの話のとおり、スペースがないということで、品評会のための野菜の展示が主なことと今回はなっています。先ほどあった宝船の作成を主にやることになるので、その展示が今回、農業振興連合会のほうではやることになると思います。ほとんど話されてしまったので、それ以上が余りないのですが、ぜひ皆さんの目につくように、なるべく展示を大きくしながら、PRしていければと思っています。

その中で、皆さんに来ていただいて、どんな野菜があるとか、小金井の野菜、本当にいろいろな種類があるので、ぜひ見に来ていただければ。また、野菜以外にも、いろいろな植木とかも出ていますので、ぜひそういうのも見ていただければ。余りそういうのを見る機会はないと思いますので、お友達とか、お誘いいただいて来ていただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○南会長 ありがとうございます。

○渡辺委員 補足になるのですけれども、きょう、間に合えば資料を持ってきたかったですけれども、実は9月の頭に最終的な結論が出ますので、次回の会議のときには皆さんにお示しするものがあると思いますので、またそのときはよろしくをお願いします。

○南会長 ありがとうございます。

市民の方から質問とか、ありますでしょうか。

○松嶋委員 松嶋です。

農業祭等で食育に関するブースをつくと書いてありますが、それはことしは何か計画があるのか、どういうふうに通育とかかわっていただけるのかということをお聞きしたいと思います。

○渡辺委員 まず、江戸東京野菜のコーナーをことしもつくります。昨年まではテントだったのですが、少しだけ交流会館使えるところがありますので、そこでチラシ等も用意してアピールしていければと思っています。

○南会長 ありがとうございます。

ほかに。

○島崎委員 島崎です。

農業祭、宝船をつくられるところなどを、一昨年、朝からずっと見学させていただきまして、初めてだったので、ものすごく感動したのですね。そのときにいろいろ撮らせていただいた写真を学校で掲示したり、あと、食育朝会と称して、ちょうど11月というのは、感謝してというのがテーマになることが多いもので、それにもちなん、宝船の写真を大きく子供たちに見せたり、あと、学校のそばにもこんなに畑がたくさんあって、こういうふうにつくっていらっしゃる方がいてということをお供たちに話したのですけれども、農業祭関係の、市報では紹介はしていただいているのですけれども、いろいろポスターが張ってあったりする、そういうものが学校のほうにもおりてくると、より子供たちが直にそれを目にすることができるかなと思っておりますので、ご検討いただけたらと思います。

○渡辺委員 学校にもチラシの掲示とかをさせていただけるのであれば、つくっていただきます。

○島崎委員 食べ物に対する感謝だとか、生産される方々への感謝、その姿を見ることというのは、子供たちにはとても大切だと思ふのと、あと、学校の教職員も、すごく残念だと思ったのは、私はすごく感動したのですけれども、その写真を見せたときに、私は東小金井市の農家の子なのですが、見たことがなかったという人もいたのですね。だから、地域のことを知らせるという意味でも、ぜひお願いしたいと思います。

○南会長 情報発信のほう、よろしくお願ひいたします。

ほかにはよろしいでしょうか。では、「啓発活動の充実」については終了しまして、次に、「情報の

整備」ということで、食育ホームページというのがあるのですけれども、編集委員をやっています雀部委員より説明をお願いいたします。

○雀部委員 実際にホームページを見ていただいたほうがわかりやすいと思いますので、これから10分、15分、お時間いただいて、紹介したいと思います。

これが現在のホームページで、今、ちょうど作りかえをしているところなのですけれども、今、つくりかえようとしているホームページのほうも紹介させていただきます。

これが今のトップページになります。食育についての説明なのですけれども、どういうものが中にあるかという一覧もありますし、おもしろいのは野菜の花当てクイズなのですけれども、これはお子さんや親子で見てほしいなという部分をつくりたいねという話で、酒井委員も編集委員に入っておりますので、酒井委員に写真を提供いただいて、今、ちょっと押ししてしまいましたけれども、例えば、この白い花、何の野菜の花でしょうか。実際に畑で野菜の花を見る機会はほとんどないと思うので、結構きれいな花が咲いて、食育のイベントでもこういうクイズをやったりするのですけれども、これはニンジンの花なのです。ここに簡単に押すと見られる。こちら、何の花かわかる方、いらっしゃいますでしょうか。ちょっと想像してください。この黄色い小さい花はブロッコリーが1つ1つ咲くとこういう花になる。お花屋さん売っているようなものでもないの、ちょっとおもしろく、興味を持っていただこうかなと思っています。

小金井スタイルについてもここに説明が書かれてあって、ずっと下のほうにおりてくると、いろいろな項目がありますよというふうに、この中でお話しさせていただきます。1つ1つのページは軽く今、説明させていただこうかなと思っていますのですけれども、小金井スタイルについての詳しい説明、1つ1つ説明はこういうふうに。さらにそれを掘り下げているのがこのホームページの特徴でして、例えば、地場の野菜をということで、庭先直売所、例えば、この辺をクリックすると、直売所を利用しようということで、これは実際に配られているものをホームページでも見られるようにしているのですけれども、市内にはこんなにたくさん直売所があるので、ぜひ近くに行ってみて、足を運んでみてくださいというようなご紹介をしたりしています。

このほかにもいろいろなページがありますけれども、例えば、食事をともにすること、どういうふうに団らんをつくっていくのかなど、共食という、今、テーマになっていますね。なかなか親と子の時間が合わない。6つの「こ食」というのをご存じの方もいらっしゃると思うのですけれども、1つ1つの「こ食」について、ここまで掘り下げたページというのはほとんど見当たらないですね。より深く編集委員のほうで考えて、こういう結果になっているというふうにご紹介はしています。

イベントスケジュールなのですけれども、食育推進計画の16ページの関係各課の事業を紹介すると

ということで、皆さんがよく市でいただくこういう資料は、何課が何をやっていて、何課が何をやっていてという分け方なのですけれども、市民の方にとっては課ありきではないと思うのですね。課で分けられると、何をしているのだからよくわからないということもあるので、それを取り払って、月ごとに、食育のイベントが市内のどこで行われているかがわかりやすいようにカレンダー方式にしてみました。実際には、市報に載っている情報を違うアプローチから見るができるようになっていきます。例えば、この8月2日ですと、クリックすると、8月2日はこういう内容のイベントをやっていますよ、7日ですとか、17日ですとか、市内で日にちごとに何をやっているか。結構食育の事業というのはたくさんあって、日にちごとに見られるというのも、また1つ、違うアプローチが、ホームページならではだと思ってしまうのですが、こういうアプローチで説明をさせていただいています。

それから、ホームページを見る方は若い方が多いと思うのですが、大体、食に関するものをネットを使って見る方は、食べログというレストランの紹介ページですとか、クックパッドという料理レシピの紹介を見る方が多いのですね。そういう入り口からということで、「小金井野菜で簡単レシピ」というページをつくっています。これ、すごく長いのですが、横に、ピンクのところ、ずらずらずらというのは全部レシピなのです、1個ずつ。各レシピに飛ぶようになっていきます。ずっと下まで行くと相当な長さなのですが、これは全部、編集委員が考え出したレシピです。ルールがありまして、手順をなるべく簡単にすること、どなたでもつくれるようなものを紹介させていただいています。

例えば、時期物ですと、「キュウリのヨーグルトみそ漬け」をクリックしていただくと、ちゃんとレシピが出るようになっていきます。1番、2番、3番、4番までしかないレシピです。すごく簡単。ヨーグルトとおみそを混ぜたものの中にキュウリをつける。家でも簡単に漬け物がつくれるということで、なかなかおいしいレシピですが、こういうふうに1個1個のレシピに簡単に飛ぶようになっていきます。必ず時期の野菜の説明も載せてあったり、この表は何かというと、JAで提供いただいて、小金井市でとれる野菜を分類して、いつの時期にとれるか。小金井、こんなにたくさん、いろいろな種類の野菜をつくっているのですね。ご存じない方もいらっしゃると思うのですが、直売所に行くと、その時期の野菜が手に入るということで、ぜひ活用いただきたいと思っています。

一番上に行きますね。これは今、ネットにつながっていないので見ることはできないのですが、食育ブログということで、そのとき旬の話題をいろいろ載せたりですとか、編集委員が思ったことを簡単に、一々記事という形ではなくて、挙げられる方法は何かないかということで、ブログをやっています。食育のホームページ、今、大分いろいろなところにつくられているのですが、ブログ形式があるというのは、ほとんどないのではないかと、いうくらい珍しい。更新がすごくまめになるのですね。そういう意味でも、ちょっと画期的かなと感じています。

ちょっと前後してしまいましたが、これは食育推進計画の16ページ、2番のところに当てはまりませうけれども、市民ボランティアによる編集委員会をつくり、食に関する情報を提供するというふうに載っていますけれども、これが編集委員会のメンバーになっております。もう6名ほど、活動を市から委嘱されて、ボランティアでずっと続けているのですけれども、月1回、編集委員会をしまして、そのときの話題について議論したりですとか、ホームページにどういふものを載せていくかをお話ししています。新しく委員に入った方もいるので、まだ全員が載っているわけではないのですけれども、常に募集はしています。編集委員も、農家の方ですとか、料理研究家の方、私は副委員長なのですけれども、委員長はホームページを実際につくっている、お仕事で編集をやっている方なので、そちらの方に一任してつくっていただいているのですけれども、中身の記事については、そのほかに、給食の調理をやっていた方ですとか、主婦の方ですとか、食に関するお仕事や勉強をされている方も委員の中に入っています。かなりのプロ集団だと思っていただければ幸いです。

このホームページが現在の形なのですけれども、これがどうなっていくか。今、形式を変えようとしている途中なのですけれども、皆様に一足先にお見せしたいと思います。改善点がいろいろありまして、字が多くてちょっと見づらいという話もあったので、なるべくシンプルな形にしよう、ホームページのトップページにいろいろな情報をちょっと載せ過ぎていたなという反省もありまして、ホームページをシンプルな形にしています。今月のトピックということで、レシピもこちらから旬の野菜を紹介するような形にしました。

例えば、レシピですと、枠はまだ考え中というところなのですけれども、その時期の、なるべく旬のもので見てもらうほうがわかりやすいのかなということで、こういう形にして、主菜、副菜、汁物、デザート、ドリンクですとか、分類別にしたほうが選びやすいのかしらということで、今、こういう形で作っている最中です。ブログのほうもまだなのですけれども、このような形に枠組みを決めてやろうかなと思っています。今のままだと、いろいろなものにつく予算がないので、できる範囲で変えているという状況です。

リンクがフリーなので、いろいろなところにリンクを張る。もちろん市が絡んでいるので、勝手にいろいろなことはしていないのですけれども、例えば、市内の学校と相互リンクということで、小金井二小と東小と緑小、この3つの小学校は張っているのですけれども、できれば市内の小中学校全部とリンクを張れたらいいなとは思っています。

問い合わせページも今回ちょっとつくってみました。もっと皆様に意見をいただきたいということで、いろいろな問い合わせが簡単にできるようなページも、ご意見とか、募集について、応募について、ここに「ご飯チェック」と書いているのですけれども、「ご飯チェック」というのは、皆さんが各家庭で

つくっているご飯は栄養バランスどうなのかしらと、結構気になっている方もいるので、もちろん匿名なのですけれども、応募いただいて、編集委員のほうでチェックして、健康課の栄養士も入っていたいて、こういうふうにしたらもっといいのではないですかというアドバイスをさせてもらうようなページも実際やっています。

もう6年もやっているので、結構課題も増えてきてまして、1つは、ホームページ自体が、アドレス見ていただくとわかるのですが、今、個人のサーバーなので、最初はわけもわからずスタートしたので、どういう形でやっていいかというのは、徐々に問題が見えてきたという状態なので、個人のサーバーなので、何とか予算でサーバー代はつくことになったので、リニューアルに当たり、今回、形を変えましょうということで、より見やすいページに工夫することにしました。本来はサーバー移行したときに、アクセスについて解析が現在できない状態なので、アクセスについて解析ができるような状態であれば、ニーズがわかってくるので、よりページも充実させられるのかなと思っています。

あと、市内の取り組みをもっと紹介してもらいたいので、食育コーディネーターをなるべく早目に任命いただいて、こちらと一緒にリンクしてやっていきたいなと思っています。正直言うと、アクセスがちょっと伸び悩んでいる部分があって、周知がまだ足りないのかなというふうにも思っています。それについては、サーバーが変わってページがリニューアルすることによってアクセスが伸びてくれるのを願っているのですが、実際、レシピなども、材料費も編集委員の自腹を切っているという、ちょっと寒い状態なので、自己負担でやっていますので、何とかボランティアで細々と、でも、充実させていこうという意識だけはすごく高くやっています。

市民のより役に立つホームページでなければ意味がないと思うので、そこを充実させて、一度つくって終わりとか、ずっと更新しないホームページは嫌なので、週に1回更新しているのです。なかなかこれは大変なことなのですが、月に1回の編集委員会の中でそういう話が出て、なるべく活発にホームページの更新はしています。

ちょっとお願いなのですが、先ほどのリンクの話なのですが、怪しいホームページではなくて、市から委嘱されているホームページなので、できれば島崎委員にお願いしたいのですが、栄養士会などを通じて、ほかの学校のリンクもぜひ呼びかけていただきたいと思っています。いかがでしょうか。

○島崎委員 承知いたしました。各校の栄養士が集まる会が月に1回あるので、そこでもお声がけをさせていただきます。

○雀部委員 ということで、充実させていけば、市内の小学校によっては、給食の献立を写真に撮った



りしてホームページに上げている学校もあるんですね。市内に住んでいる、別にお子さんを持っている方だけではなくて、こういう給食を現在の子供は食べているのですよという意味でも、ぜひホームページで紹介したいなと思っているので、より内容を充実させるために、今後、小学校の取り組みなどもぜひ取り上げて取材していきたいなと思っております。

ご質問等ありますでしょうか。ホームページに関して。

○菊谷委員 意見みたいのをしてもいいですか。

○雀部委員 これで一度終わりにさせていただいて、会長に聞いていただいて私がお答えするという形でもよろしいですか。済みません。ありがとうございました。

○南会長 ありがとうございました。

では、このホームページ作成、今、途中段階だそうなのですが、途中だからこそ、今だと、これをやってほしいとかいう要望が聞いてもらえるのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

○菊谷委員 いいですか。菊谷です。

私のクリニックは、かむこととか、飲み込むことが難しくなった子供たちと、ご高齢の方が多くいらっしゃるのですが、その人たちの最大の問題は、野菜が食べられないのですよ。最も食べにくい食品で、それが食べられないことによって、ビタミン不足やら繊維不足が最大の問題で、私自身も何冊か料理の本を書いているのですが、食べにくくなった人向けの、何かあったらいいなと思いました。野菜を加工するのはすごい難しいだろうと思うのです。飲み込むことやかむことが難しくなった人向けの。結局、そこもちらっと見えたのが、メタボリックシンドロームはよく話題になるのですが、むしろ低栄養のほうが我々は非常に注目をしていて、ご高齢の方、特に大きな飲み込み障害やかむことの障害がない人でも、だんだんライフイベントやら、ADLの低下に伴って、食べる量が少なくなっていくって、低栄養、しっかり食べなさいよと言うのも非常に重要な教育だろうと思っているので、そんなのを同時にアピールできるようなところがあるといいなと思って、今、見ておりました。要望があります。よろしくお願ひします。

○雀部委員 ぜひリンクを貼るところからスタートしていただければ。市内のいろいろな関係の方にリンクを張っていただければ、そのリンクを貼ったところにぜひ取材させていただいて、レシピをご紹介させていただくような形をとらせていただきたいなと思っております。

○菊谷委員 私たちのクリニックの中にも栄養士がいて、子供たちの栄養指導、調理の指導、在宅の高齢者の指導もしているので、一緒に開発ができたらいいいなと思って聞いていました。よろしくお願ひします。

○雀部委員 ぜひよろしくをお願いします。

○南会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

○松嶋委員 松嶋です。

今のお話なのですけれども、私も編集委員なのですが、うちの父がちょっと嚥下障害がありまして、ホームページの中にキュウリのそうめん仕立てというのがありまして、キュウリにくず打ちをしてゆでたものを、この間、夏休みに私が実家に帰ったときにつくりましたら、父が大層喜びまして、とろみがあつて、キュウリ、今までかみ砕けなかったものがおいしく食べられたということで、非常に喜んだので、そういうアプローチで、既存のレシピでもそういうことで見ていただいて、こういうものならということで、そういうコーナーをつくるとか、そういうことが将来的にできたらいいなと思います。

○菊谷委員 今、既にあるレシピの中から幾つか寄せ集めただけでも、先ほどの課別ではないという、あれと同じ方向だと思うのですけれども、見方を変えると、そういう方でも食べやすいものがいっぱい、実はもう既に載っているのかもしれませんが。それをボタン一つでぱつとということになると、それだけでも大分。

○松嶋委員 編集委員として非常に参考になる意見だと思いました。ありがとうございました。

○南会長 健常児を対象にしたホームページかなという感じがするので、そうでない、離乳食とか、あと、もしあれでしたら、成人病予防食というのですかね、そういう形の内容もあるといいかなと思うのですね。

○松嶋委員 そうですね。ホームページの編集委員も、全てをなかなか網羅できないのです。得意分野と不得意分野があつて、なかなか全部を網羅することができないので、本当にいろいろな方面の方々にご協力いただくと、より充実したホームページになるのかなと思いますので、ぜひご協力、よろしくをお願いします。

○南会長 ほかにいかがでしょうか。

○高木委員 高木です。

食育ホームページ、何度か拝見させていただいていて、本当に充実しているなと、ありがたいなと思っております。乳幼児を抱える新米ママたちの意見で、子供の食事の量の調整が難しいという話をよく聞くのです。摂取量は表になっていたりして、いろいろなところで目にしたりはするのですが、実際の食べる量というのが、写真など目で見てわからないと、結局、どのぐらい食べたほうがいいのか、食べ過ぎなのかということがわからなかったりするのですね。7月の終わりにうちの息子が病気で杏林病院に入院したのですけれども、そのときに病院食を目にして、病気は病気で大変だったのですけれども、

食育の面で、親の私がすごく勉強になって、もちろん病院食なので、動かない分、多少少な目だとは思いますが、普段、あげ過ぎていたなということをととても実感しました。目で見て、このぐらいだよというのを、保育園に通われている方は給食などを目にする機会が、保護者の方もあると思うのですけれども、幼稚園に通っていて、お弁当で過ごす子供たちは、親御さんも量がわからなかったり、意外とあげ過ぎていたのだなという声を聞くので、そういったものもホームページなどを利用して目にできたらなと思います。

以上です。

○南会長 ありがとうございます。

○雀部委員 今、写真などでビジュアル的にわかりやすくというのはすごくいい意見をいただいたと思って、ぜひ取り組んでみたいと思うのと同時に、私、栄養士の資格があつて、児童館で離乳食講習会を実際やっている側の人間として、ホームページから少し離れるのですけれども、摂取量については、表で規定されている食事量というのはマックスの量なので、グラムで言うと。あの量よりも食べない子のほうが実際は多いのです。半分ですとか、3分の1、下手すれば4分の1量、分類によっては全く食べないという子もいるのですけれども、これは機械的に何グラム食べられるから大丈夫ということではない部分があつて、その子が必要としている量がその子の必要量で、食べない時期もあれば、当然食べる時期もあるので、かなり個人差が大きいということ、離乳食講習会などでは大分周知しています。うちの子、食べ過ぎちゃってというのと、うちの子、食べなさ過ぎて心配なのですけどというご意見を必ずいただいて、その方に個別にお話しするというスタイルなのですけれども、お母さん方は一番心配されていることみたいなのなのですけれども、すごく個人差が大きいということもまず知っていただくのは大事かなと思っています。

○南会長 ありがとうございます。

ライフスタイル別のQ&Aみたいな、そういうコーナーもあるといいかなという気もします。

私からですと、栄養学が専門なものですから、いろいろな野菜のレシピありましたが、そのメニューでつくると主にどんな栄養素がとれるかとか、そういうのもあるといいと思います。この1品をつくと、あと、このサイトにあるどれとどれをつくと1食分の栄養素が満たせますよという情報も加えていただくとありがたいかなと思いました。

○雀部委員 レシピに栄養素をつけるというのは、周知とか啓蒙の観点から言うと、すごく意味のあることだと思って、皆さんにチラシを配っているのですけれども、これはビジュアル化した1つの成功例だと思うのですけれども、野菜を1日350グラム食べましょうと言うのですけれども、実際、350グラムを調理したイメージというのがなかなか皆さん、わかりません。生野菜は食育イベントなどで

もグラムをはかって計量して実際に見ていただくことができるのですけれども、1日350グラムの野菜を実際調理すると、このぐらいのレシピの中に組み込まれますというような、目で見てわかりやすいものになっています。それから、お子さんがいらっしゃる方とか、お昼、家で食事されない方のために、昼食はお弁当のスタイルにして、こういう形で載せたりしています。これではぼ350グラム賄えるレシピですというのは、イメージしていただけたらと思うのですね。これは朝昼晩で、食材もいろいろ使っているのですけれども、こういう形で。意外と350グラム食べられるねというのが編集委員の感想だったので、実際載っているレシピについては、全て食育ホームページ内に載っている野菜のレシピを実際に使ってつくっていますというのが売りなので、レシピのほうにも行っていただけたらいいかなと思っています。こういうものを、今、すごくご要望がありましたので、いろいろな方面でふやしていければと思います。ありがとうございます。

○南会長 1食1食見ると食べられそうですけれども、朝抜いたりして、2食でこれを食べるとなると大変な量だなという感じです。

○雀部委員 だから3食食べましょうという意味にもつながってくると思います。

○南会長 その辺のことが市民の方に伝わるといいなと思います。

ほかに何か。

○高木委員 高木です。

ホームページをつくる側のそういったシステムが余りわからないのですけれども、例えば、閲覧する側が、このレシピにアクセスがこのぐらい来ているよというアクセス数などを表示することは可能なのでしょうか。

○雀部委員 編集長一人が全部一手に引き受けてやっているのですが、私もシステムに詳しくはないのですが、アクセス数ではなくて、例えば、人気レシピトップ10みたいな形だと、もしかしたら挙げられる可能性はあるので、クックパッドでもそうですね。こういうふうを検索すると、このレシピ人気ありますみたいなのがトップで載ってきたりするのですが、そういう形では挙げられるのではないかなと思うのですけれども、完全にはご説明できないのですけれども。

○高木委員 クックパッドは利用しているのですが、アクセス数や人気メニューなどがトップに出てきたりすると、割と見やすいというか、つくろうという気になるというか、そういったことも利用したら、もっともっと閲覧する人がふえるのかなと思いました。

○南会長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。では、数多くの意見が出たと思いますので、事務局のほうでメモなどをとっていただいて、まとめていただけたらと思います。で

は、この件については終了ということで。

3ですけれども、何かありますでしょうか。事務局からはないでしょうか。そうしたら、「その他」に移ってもよろしいでしょうか。

次回から「生涯にわたるライフステージに応じた食育推進」に関して審議していくこととなるのですが、特に最初は「乳幼児と保護者の食育推進」や「学齢期の食育推進」について審議していくこととなりますので、委員の皆さんには、それについての意見などを考えておいていただけたらと思います。

本日の議事は終了なのですけれども、「その他」として3点あるようですね。

まず、栄養教諭の島崎委員から、学校栄養士会についての紹介をお願いいたします。

○島崎委員 学校栄養士会の食育リーダー会議というのですけれども、まず、前段として、食育リーダーという言葉があります。これは学校の中の用語になるのですが、食育を推進していこうという流れの中で、国では、これは東京都が定めたものなのですけれども、学校には学校組織で、例えば、生活指導をちゃんとやっていきましょうとか、いろいろな組織で動いていくのですが、その中で、食育を推進していくために、食育リーダーという立場を1つ設ける。そして、食育リーダーを中心とした食育推進チームを学校につくるようにということで、これは都からおりてきているものです。その食育リーダーになる人は、教員であったり、栄養士であったり、栄養教諭であったり、その学校によってまちまちで、あと、食育推進チームという名前も、学校によって名称はさまざまで、健康にかかわっていく部署がそのままそれを引き受けるというところがあるのですけれども、私の所属する東小学校では、栄養教諭が食育リーダーを担い、そして、健康体力向上委員会という部なのですけれども、例えば、運動会をどうしようとか、それから、保健の計画はどうしようということで、体育主任だとか、養護教諭も入っている組織です。そこを食育推進チームも兼ねてやっていくというふうになっているのですけれども、小金井市内の各学校の食育リーダーが集まって会議をするというのがありまして、それが食育リーダー会議です。これは1年間に適宜回数を決めてやるようになっていっているのですけれども、小金井市では、去年は行われませんでした。おとしは一度、講演会と称して行われたのですけれども、今年度、そこも活発にやっていかなければいけないということで、まず7月7日かな、一回行われました。その報告をさせていただきます。

その食育リーダー会議では、各校での食育の取り組み、どういうことをしているということを参加された先生から報告があるのですけれども、各学校、食育推進計画、年間指導計画というものを作成しておりまして、その情報交換をその会では行われました。その中で、一応、私のほうからは、小金井市の食育推進会議に出させていただきますので、この会議の内容を報告させていただき、それから、

食育コーディネーターも今度設置するというので、その概要というか、本当に簡単になのですけれども、お話をさせていただきました。食育ホームページについてもそのときにちょっと紹介はさせていただいているのですけれども、小金井市の食育のリーフレットを来校された方がよく目にするところに置きたいという学校が1個ありまして、それは健康課のほうにすぐお願いいたしまして手配していただいて、多分、その学校では置いていると思います。食育リーダー会議は、あと1回か2回ぐらい行われるのではないかと思うのですけれども、その際にも、栄養士会は栄養士会がやるのですけれども、食育リーダー会議でも、こちらの会議の話を見せていただいりしてつながっていけるようにできたらなと思っています。

簡単な、中途半端な報告なのですけれども、よろしいでしょうか。

○南会長 ありがとうございます。

続いて、事務局のほうから、6月1日に行われた「まちたからフェスタ」についての報告をお願いいたします。

○千葉主任 それでは、食育月間行事として参加いたしました「まちたからフェスタ」についてご報告いたします。

J A東京むさし小金井地区青壮年部様が出展いたしました地場野菜の直売所にて、食育ミニパンフレット、あとは食育ホームページのレシピチラシなどの配布を行いました。大変多くの方に来場いただきまして、食育のチラシだけでも600人の方に配布をさせていただきました。この食育推進会議の委員からは、土屋委員、それと酒井副会長にご参加をいただきました。

事務局からは以上です。

○南会長 ありがとうございます。

それでは、補足説明で、土屋委員、何かありますか。

○土屋委員 当日は事務局の方に早くから手伝っていただき、また最後の終わりの片づけまで手伝っていただき、本当にありがとうございました。

天気もよく、多くの来場者の方にチラシ、パンフレットを配ることができ、食育のPRがある程度できたのではないかと思います。基本的に配る人たちなのですが、当日のイベントでスタンプラリーというのを全体の流れで行っていて、そのパンフレットを持っていったらもらった人、スタンプラリーは大抵子供が参加しているので、親御さんと一緒に来ることが多かったと思うのですが、来てくれた方にシールを張るといような、スタンプではなく、こちらのブースではシールを張るといような対応をしたのですが、その流れでやっていたので、子供から大人まで、パンフレットを見る機会が多くなったのではないかと思います。

当日の野菜販売の話ですが、ちょっと変わった野菜は、写真つきまでの準備はしていなかったのですが、簡単なレシピを1枚つくり、買っていった方に持って行っていただくと。もちろん、レシピだけ欲しい方にもそのままお渡しはしましたが、そういう流れで食育のPRがある程度できたのではないかと考えています。本当に皆様の協力で無事終わったのはよかったなと思っていますので、青壮年部のほうですが、また何かイベントがあれば、お伝えして、また協力いただければと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

○南会長 ありがとうございます。

続いて、酒井委員、何かありますでしょうか。

○酒井委員 大体、土屋さんがおっしゃったとおりなのですが、スランブラリーはすごく効いていて、子供たちに魅力的なのはこれですね。このシールの小さいのをスタンプラリーで張ったので、かわいいので、とても多くの方がチラシを取っていただきました。そのときに、食育の、これは新しいほうなのですが、古いほうのチラシをお配りしているのですが、興味を持って見ていただいた方もいらしたりして、ああいう人が多く集まるイベントと一緒に参加できると、いろいろな意味で周知ができていいかなとは感じました。

○南会長 ありがとうございます。

続きまして、鈴木委員から資料を用意していただいているということで、説明をお願いいたします。事務局のほうからまず説明して下さるといことなのですから。

○田中主事 では、資料4と資料5についてご説明いたします。

まず、資料4をごらんください。こちらは長野県のホームページからダウンロードしたものになりまして、長野県の健康長寿についてまとめたものになっております。前回、鈴木委員からお話のあった減塩の取り組みについてもこちらのほうに掲載されています。

まず、1番目の図を見ていただきたいのですが、こちらは厚生労働省の平成22年の都道府県別生命表の結果から、長野県の平均寿命が平成22年、男女ともに全国1位ということで、男性が80.88歳、女性が87.18歳ということで、世界的に見てもトップレベルの水準だということが載っております。

下の図を見ていただきますと、昭和50年ごろから、平均寿命について長野県は高い水準を保っていることがわかります。

2枚ほどめくっていただいて、3ページの4番目、健康長寿の要因として4点挙げられています。

まず1つ目に、長野県は高齢者の就業率が高く、生きがいを持って生活しているという点で、高齢者の就業率が全国の平均20.4%に比べ、長野県は26.7%と1位になっております。

2番目に、野菜摂取量が多いという点が挙げられます。長野県は豊かな自然に囲まれた地域で、自家栽培が盛んという点が挙げられますが、全国の野菜平均摂取量が目標摂取量を下回る中、男女ともに1日350グラム以上が摂取できていることから、野菜をとる食習慣が身につけていることがわかります。

3番目に、健康ボランティアによる自主的な健康づくりへの取り組みが活発という点です。食生活改善推進員1人当たりの年間活動回数も全国の17.2回を上回る22.2回となっており、また、保健補導員の設置市町村数については、全国的に見ると県下ほぼ全域で活動している例がない中、長野県は77市町村中の76市町村という、非常に活発な活動が行われております。

4番目に、専門職による地域の保健医療活動が活発という点です。こちらは人口10万人当たりの保健師数なのですが、全国平均が35.2人という配置数に比べ、長野県は約2倍近くの61.9人という配置数となっております。これは保健師だけではなく、管理栄養士についても、長野県は配置状況が全国的に見ても充実しております。

下の図に行きまして、長野県におけるこれまでの取り組みについてです。

まず、「予防に重点を置いた地域の自主的な健康づくり活動」が行われてきました。戦後の長野県は脳卒中が大きな健康問題になっておりまして、昭和30年から40年代には脳血管疾患による死亡率が人口10万人当たり250人を超えていた。これは全国平均と比べても100人以上の差があり、非常に脳血管疾患による死亡者数が高かったということになります。

背景としては、冬の寒さが厳しい土地のため、漬け物などの塩を使った保存食が定着していたという点です。お茶菓子のかわりに自宅で漬けた漬け物を出す風習があるほど漬け物が大変身近なものであり、また、塩分摂取過剰の認識をしている人が非常に少なかったと言われていました。

昭和20年代に保健補導員制度が整備されました。保健補導員についてなのですが、こちらは保健活動に携わる住民の自主的な組織になりまして、一般家庭の30代から70代の主婦が中心となり、任期は1年から2年の交代制で、地域の健康づくりを推進するという活動を担っております。

昭和40年代には、診療所の医師、市町村、保健所などの保健師、栄養士、またボランティアの食生活改善推進員、保健補導員など関係職種が一体となって保健予防活動を展開していきます。

この中の具体的な取り組みとして、1つが減塩運動になります。こちらは、調理実習や食事の塩分濃度の測定、また、塩ではなく酢を使った漬け物の普及など、さまざまな取り組みを行ってきたようです。そうした住民活動の積み重ねが、脳卒中に限らず、さまざまな健康問題に対する予防知識を地域に浸透させ、予防行動の実現に大きな役割を果たしたということです。

次のページの上の図を見ていただきたいのですが、「医療機関による保健活動の推進」も挙げられま



す。こちらは佐久総合病院等の医療機関の積極的な「農村医療」の実践や、国民健康保険診療施設等の積極的な保健活動の取り組みがなされてきたというのも活動として挙げられます。

下の図に行きまして、長野県における今後の取り組みについてなのですが、健康づくり・医療充実プロジェクトとして、多岐にわたった内容となっておりますが、減塩については一定程度の効果は上げているものの、いまだ脳血管疾患の死亡者数は全国平均よりは高い状況となっております。今後、県民一体となった有効な対策を立てることが平均寿命、健康寿命のさらなる延伸に向けた大きな課題であるようです。

資料5をごらんください。こちらは、長野県佐久市の平成25年12月の広報になります。佐久市は80歳を過ぎてでも元気で健康的な生活を送る人が多く、「ぴんぴんころりの里」として全国的にも注目されています。「ぴんぴんころり」というのは、健康なまま長寿を全うするという意味になっております。こちらの広報では、「“赤ちゃん”から“お年寄り”までみんなの力で…新しい保健活動のスタート」として、佐久市の昔と今の塩分摂取量や、塩分の働き、血圧との関係などについて掲載されております。

事務局からは以上です。

○南会長 ありがとうございます。

鈴木委員から何か補足説明ありますでしょうか。

○鈴木委員 とてもわかりやすい資料を用意していただきありがとうございました。この資料に目を通しまして、長野県の取り組みというのが健康に的を絞って、健康というのを掲げてやっているのがわかりまして、小金井市の場合ですと、農産物の消費の推進ですとか、環境や子育てやレクリエーションのことなど、割と幅広く、その課、その課によって目指しているところが多少違ってくるのかなという気はするのですが、その中でも、どこに重点を置くのかなというところが気になりまして、健康課での推進会議をやっているんで、食育の目指すところは健康づくりだと思うのですが、健康づくりで市民の一人一人に自分一人の健康を大事に考えて積極的に取り組む意識づくりというのが大切になってくるように思いました。

○南会長 ありがとうございます。

皆様から何かありますでしょうか。

○千葉主任 本日、JAの渡辺委員から資料の提供をいただいておりますが、ただ、皆さんの分がご用意できなかったということなので、簡単に紹介をさせていただきたいのですが、JAで作成されている「食農教育を進める子ども雑誌」というものを発行されているようです。きょう、6部ほどお持ちいただいておりますので、もし気になる方がいらっしゃいましたら、事務局におっしゃっていただければ、お

渡しできる分が幾つかありますので、資料の紹介ということでお時間をいただきました。

○南会長 ありがとうございます。

それでは、最後に、次回の開催の予定について、事務局からお願いします。

○千葉主任 次回の開催予定についてですが、3カ月後の11月に平成26年度第3回の会議を開催いただければと考えております。詳細な日程につきましては、今回と同様に候補日をご連絡させていただきまして、参加できる方が多い日程での開催をさせていただきたいと思います。

事務局からは以上です。

○南会長 ありがとうございます。

以上のような流れでよろしいでしょうか。ありがとうございました。では、そのように準備をさせていただきます。

それでは、以上をもちまして平成26年度第2回小金井市食育推進会議を終了したいと思います。お疲れさまでした。

— 了 —